



さえずり

会長 根津 江美子

(十日町市立西小学校 教頭)

みんなで佐渡に行こう！ 今年が目玉は・・・

会長 根津江美子

今年度のリコーダー教育研究会の目玉は、なんとと言っても「第43回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会 新潟・佐渡大会」です。副会長である佐渡の嶋見先生を中心にして、進めている状況です。



<大会主題>

生涯にわたって音楽と楽しくかかわる姿を求めて
～リコーダーの特性や魅力を生かした授業や活動の工夫～

<内容>

- ・授業公開・協議会 河原田小学校・畑野中学校
- ・全体講評 文科省調査官 志民一成様
- ・アトラクション、全国交流会
- ・シンポジウム「社会に広がるリコーダーサークル その魅力を探る」
コーディネーター「季刊リコーダー」編集長 森吉京子様
- ・合奏研究 諸岡忠教作曲
「リコーダーオーケストラの為にラプソディ『佐渡』」



と、豊富な内容で行われます。多くの会員の皆様からぜひ参加いただきたいと考えております。数年に1回の新潟県での大会です。会員みんなで盛り上げていくために、佐渡で一緒に「ラプソディ『佐渡』」を吹きましょう。今年の夏季研修会でも「特別講座佐渡」を設けて、この曲を参加者全員で講習します。

また、今年度のもう1つの目玉は、リコーダーコンテストの中に「フェスティバル部門」を設けることです。部活動縮小の中、コンテストへの参加が減少している状況が続いています。これを打破して、リコーダーの素晴らしさをたくさんの人に味わってもらいたいと思い、企画しました。多くの方の参加をお待ちしております。

さて、私たちリコーダー教育研究会の使命（？ちょっと大げさすぎますか）とは、何でしょうか。リコーダーの好きな仲間が集う当研究会です。できるだけ多くの方にリコーダーの魅力を発信し続け、生涯にわたって愛好する人を増やしていくことだと思います。今年の佐渡研究大会や、リコーダーコンテストフェスティバル部門の創設を1つの機会として、多くの方にリコーダーのよさと楽しさを伝えていきましょう。



平成30年度 新潟県リコーダー教育研究会 事業計画

- 理事会 4月 1日(日) 高齢者センター「けさじろ」
- 総会 5月19日(土) 長岡リリックホール・スタジオ

上記、総会にて、今年度の事業計画が決定しましたので、お知らせいたします。

例会

各会で講師先生から指導をしていただきます。

※ 敬称略

- ・春の総会 5月19日(土) 講師 嶋見靖之
※佐渡大会で発表予定の「佐渡」を練習。
- ・夏の例会 6月30日(土) 講師 太田 光子
※「光子だより ～ リコーダー奏者 太田光子の毎日」
(ブログ)で紹介してくださっています。ご覧ください。
- ・秋の例会 9月17日(月・祝) 講師 本村 睦幸
- ・冬の例会 11月23日(金・祝) ※佐渡研究大会



第44回 夏季リコーダー研修会

◆ 初心者の方も安心してご参加ください。

- ・期日 **8月6日(月)・7日(火)**
- ・会場 南魚沼市民会館
- ・主催 新潟県リコーダー教育研究会
- ・後援 新潟県教育委員会(申請中) 南魚沼市教育委員会
全日本リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会
- ・受講料 12,000円(会員は、10,000円) 1日のみは半額。
- ・宿泊 **なし**
※ 希望者には斡旋(六日町温泉「ホテル 坂戸城」) 1泊12,000円
※ 講師を囲む会有り 8/7 18時~20時
- ・講師 金子健治・北村正彦 ※ 敬称略
- ・**申込締切 7月20日(金) 亀田西小学校 上村弥**
950-0151 新潟市江南区亀田四ツ興野4-1-1
025-382-3041 , F 0250-24-2660 , E-mail / ya_san@me.com
※ 申込用紙は、県リコ HP に掲載

第43回 全日本リコーダー教育研究会 全国研究大会 新潟・佐渡大会

- ・主催 全日本リコーダー教育研究会 新潟県リコーダー教育研究会
- ・共催 佐渡市小学校教育研究会音楽部 佐渡市中学校教育研究会音楽部
- ・主管 佐渡地区リコーダー教育研究会
- ・後援 文科省 県教委 佐渡市教委 県音研
- ・期日 11月22日(木)・23日(金) 勤労感謝の日
- ・会場 佐渡市立河原田小学校(22日)
Ryokan浦島(アトラクション・全国交流会 22日)

佐渡インフォメーションセンター「あいぽーと佐渡」(23日)

- ・ **大会主題** 生涯にわたって音楽と楽しくかかわる姿を求めて
～ リコーダーの特性や魅力を生かした授業や活動の工夫 ～
- ・ 授業公開 「せんりつと音色」(小3) 藤井佐代子 教諭 河原田小学校
「曲にふさわしい表現を工夫して、友達と合わせて演奏しよう」(中2)
畑野中学校 岩崎かおり 教諭
- ・ 全体講評 「資質・能力の育成に向けた音楽科の授業づくり」
文科省教課調査官 志民一成
- ・ シンポジウム「社会に広がるリコーダーサークル その魅力を探る」
コーディネーター、森吉京子先生と4人のシンポジスト
- ・ 合奏研究「合奏の魅力を探る～オーケストレーションを中心に」
リコーダーオーケストラの為のラプソディ『佐渡』(諸岡忠教 作曲)
提案指揮 嶋見靖之

※ 詳細は、2次案内(HP掲載)をご覧ください。

◆ 会長挨拶(巻頭言)にあるように、みんなで声を掛け合い、研究大会に参加しましょう。

第44回 新潟県リコーダーコンテスト

◆ 今年度から、フェスティバルの部を設ける。

- ・ 期日 12月1日(土)
- ・ 会場 南魚沼市民会館大ホール
- ・ 主催 新潟県リコーダー教育研究会
- ・ 共催 公益財団法人 南魚沼市文化スポーツ振興公社
- ・ 後援 新潟県教育委員会(申請中) 南魚沼市教育委員会
全日本リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会
- ・ 審査員 … 県教育庁義務教育課 石津忠様 他2名
- ・ **詳細は、コンテスト案内・申込書(県リコHP掲載)をご覧ください。**
- ・ **申込締切 9月7日(金)必着 〆切後は受け付けません。**
片貝小学校 (tel. 0258-84-2025 / fax. 0258-84-2045) 永井民子

会報

- ・ 年3回発行。各例会時 今年は大変的
- ・ **会報はホームページ上で公開。**
- ・ 県リコHP <http://music.geocities.jp/nrshomepage/>
- ・ 会員他の皆様へ … **投稿記事をお寄せください。mitu3tu@gmail.com** 宛て
日頃のリコーダー指導の悩み、リコーダー指導あれこれ。

その他

- ・ 平成30年度 役員一覧は、県リコHPをご覧ください。
- ・ **会員の皆様へお願い。** 下記のリコ研のアドレスに記名の上、メールを送信してください。
あなたのアドレスがリコ研に登録されますので、今後の連絡が大変助かります。

recoken_niigata@yahoo.co.jp

◆ **新入会員を募集いたします。**「リコーダーが好きです。」「昔リコーダー部にいてまた吹いてみ

たくなりました。」3回の実技研修会・夏季実技研修会・コンテストと楽しいリコーダーの研修ができます。是非仲間に入ってみませんか。

HPの問い合わせフォームから、記名の上、入会希望としてお送りください。



宮城県・柴田町立柴田小学校 訪問記

広報（HP）担当理事 児玉 禎明



平成10年代、県の夏季リコーダー研修会に、宮城県から参加いただいた、坂本忠厚先生という教員の方がいらっしゃいます。東日本大震災で被害が大変大きかった同県の石巻市に在住なので、その年に仮設住宅などへ、リコーダーで復興演奏に行かせていただいたこともありました。

そういったご縁で、現在は校長として赴任されている、宮城県・柴田町立柴田小学校を5月28日（月）に訪問してきました。坂本先生から事前に、子どもさんたちへリコーダーの指導を依頼されていました。前日に宮城県入りし、学校で事前打ち合わせをしました。

小規模校なので、当日は音楽室で全校朝会がありました。そこで、坂本校長先生から紹介いただき、同校の校歌を私がアルトリコーダーで演奏し、子どもさんが歌った校歌も聴かせてもらいました。多種類のリコーダーを知ってもらうために、私が編曲した「日本の四季メドレー」（春の小川＝Ksni、チューリップ＝Sni、花＝S、茶摘み＝A、もみじ＝T、雪＝B）を演奏しました。これは子どもさんからも、教職員の皆さんからも好評でした。

その後、3年生から6年生の音楽の授業を1時間ずつ行いました。授業は坂本先生が進め、私は教科書の教材の中で必要に応じて演奏しました。子どもさんたちはとても素直で、可愛らしく、指摘するとすぐに直してくれたので、とても感激しました。子どもさんにリコーダーへの興味をもたせるには、「実際に知っている曲を演奏するのが一番いい。」というのが、坂本先生と私の一致した考えです。そこで、全学年共通で「サザエさん～アンパンマン」、「ドラえもののうた」を私がアルトで演奏しました。その演奏が終わった後、「今の演奏が楽しかった人、手を上げてください。」と聞いたところ、何と全学年、全員が手を上げたので、大変嬉しく思いました。

柴田町は草木の自然が大変豊かなところですよ。是非この素敵な地で、子どもさんがリコーダーを好きになってくれることをお祈りしています。

【編集】

児玉禎明さんは、作曲・編曲も手掛けています。かつて、『全日本吹奏楽コンクール課題曲作曲公募』では、佳作入賞したり、津南町三箇小学校から依頼され、『十日町小唄の主題による変奏曲』（リコーダー5重奏）を作曲したりしています。また、県のコンテストの初期の頃、文中にあ

る彼の編曲作品、「日本の四季メドレー」を三条のグループが県コンテストで演奏し金賞になり、全日本に出場することもありました。自身は県のリコーダーコンテストには、平成3年から欠かさず出場し、最多と思える記録を達成しているのではと思います。

そんな児玉さんが宮城県の坂本先生と、以来ずっと親交を深め、東北大震災復興激励コンサートに度々手弁当で赴いていることに、心から敬意を表したいと思います。きっと柴田小の子どもたちは益々リコーダーが好きになり、皆様の思い出に残る訪問になったことと思います。



第39回 全日本リコーダーコンテスト審査結果

期日：平成30年3月25日(日) 会場：東京都江戸川区総合文化センター

【中学生の部】

<三重奏の部>

・佐渡／真野中学校 「5つのディベルティメント 第4番」より 銀賞

<四重奏の部>

・新発田／紫雲寺中学校 ミュンヘンの思い出 金賞
・同上 舞曲集「テレプシコーレ」より 銀賞
・佐渡／南佐渡中学校 セレナード へ長調 銀賞

<合奏の部>

・佐渡／両津中学校 小品集1 銅賞
・新発田／紫雲寺中学校 飛鳥の里へ 金賞
・佐渡／南佐渡中学校 「それはマルスの神」による変奏曲 銅賞

【小学生の部】

<三重奏の部>

・魚沼／堀之内小学校 三重奏曲 銀賞
・十日町／馬場小学校 テルツェッティ 銀賞

<四重奏の部>

・十日町／東小学校 世界の5つの都市 銀賞

<五重奏以上の部>

・魚沼／堀之内小学校 バルトークをテーマにした変奏曲 銀賞

<合奏の部>

・十日町／馬場小学校 組曲「ホルベアの時代」より I・IV・V 銀賞
・十日町／東小学校 日本民謡メドレー 銅賞
・南魚沼／北辰小学校 スペイン組曲 銅賞

・魚沼／堀之内小学校 「ミッドサマー・メド一組曲」よりⅠ・Ⅲ 銀賞

【一般の部】

<独奏の部>

・三条／庭野宏樹 リチェルカータ 第3番 銀賞



【実践紹介】

リコーダーと吹奏楽楽器でつくるアンサンブルの取組

長岡市立表町小学校
吉村 智宏

1 はじめに

以前、新潟県のリコーダーコンテストの役員控室で昼食を取りながら次のような会話をした。

「吹奏楽ってさあ、木管と金管と打楽器じゃん。リコーダーって、木管楽器に入るけれど、吹奏楽の楽器には入ってないんだよね。」

「リコーダーだって入ったっていいのにね。」

その時は、何の気なしに加わっていた会話であるが、よくよく考えてみると解せない。気になって、吹奏楽の楽器の定義をインターネットで調べてみた。すると、どのサイトを見ても「吹奏楽の楽器→木管楽器→フルート、オーボエ、クラリネット、サクソフォン、ファゴット」と紹介されている。

確かに、吹奏楽の楽器はC管、Es管、B管、F管が殆どである。しかも、吹奏楽のスケール練習はB Durで行われることが常である。それに対してリコーダーは、C管とF管である。スケール練習は、練習している楽曲によるところもあるが、B Durで行うことは殆どない。(リコーダーでのB Durのスケールは、難しいと感じる。) また、リコーダーは音量の変化をつけにくい性質があるため、純正律でハーモニーを作りを求められる。それに対し、吹奏楽は(求められることもあると思うが、私はそうした指導ができない) 純正律の響きよりも、むしろダイナミクスで表現することを求められる。

私の拙い知識でも、二つの楽器の特質には管と音量に差異があることが分かる。管が異なることで、楽器に適した調性が異なるし、音量の特性に差異があることで、それぞれのよさを最大限に表現しようとする相入れない状況が生まれる。しかし、そうした差異はコンクールなど、音楽のもつ絶対的な美を追求するときに生まれるものではないだろうか。各種ホールで掲示されているポスターに、義務教育を終えた大人が所属する音楽サークルが紹介されているが、リコーダーの団体も、吹奏楽の団体も、そうした絶対的音楽美を追求したものというより、音楽に関わる楽しみ、音楽を通して出会う仲間との繋がり、音楽を表現する喜びが目的であるように感じている。私はそれがとても素晴らしいことだと感じている。音楽科教育の、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う」を体現した一つの場面である。

しかし、リコーダーの団体も、吹奏楽の団体も「一緒に」は活動していない。リコーダーも吹奏楽楽器もどちらも学校教育の中で(授業や部活動の差はあるが) 経験する器楽である。「俺はリ



コーダーを吹くぞ。」「私はトランペットを吹くわ。」「じゃあ、セッションしよう。」となってもよいのではないだろうか。せっかく同じ学校という枠の中で行われている器楽なのであるから、もっと距離が近くなってもよいのではないかと考えた。

そこで、今年度リコーダーと吹奏楽で使用される楽器を用いたアンサンブルの取組を行い、二つの器楽の折衷点を目指した。

2 目的

リコーダーと吹奏楽で使用される楽器を用いたアンサンブルを行い、二つの器楽の折衷点を目指す。

3 対象と実践方法

(1) 対象

- ① 対象児童：表町小学校 5、6 年生(60 人、内 11 人が音楽部員)
- ② 実施期間：平成 29 年 9 月～11 月(10 月 1 日に校内文化祭で発表、11 月 8 日に長岡市親善音楽会で発表)
- ③ 楽曲：『威風堂々第一番』（作曲：E. エルガー）（※楽器編成は吉村）
- ④ 編成：フルート(1)、sop. リコーダー(20)、ten. リコーダー(1)、鍵盤ハーモニカ(9)、アコーディオン(3)、アルトサクソ(2)、テナーサクソ(1)、トランペット(4)、トロンボーン(1)、ユーフォonium(2)、チューバ(1)、木琴(4)、グロッケン(1)、鉄琴(3)、キーボード(2)、ドラム(1)、ティンパニ※Key-C・D・G(1)、その他 Per. (4)

(2) 実践方法

本実践は、「編曲」「パート編成」「指導」の 3 つの過程で行った。特に、編曲は市販されている楽譜がなかったため、長期休業中を利用して行った。ここでは、編曲とパート編成についての詳細を示す。

① 編曲

夏休み中に、吉村が威風堂々の総譜とピアノ独奏用に編曲された楽譜を元に、編曲と楽器の編成を行った。原曲は D Dur (第 1 主題)→G Dur (第 2 主題)→D Dur (第 1 主題)の三部形式であるが、編曲したものは G Dur (第 1 主題)→C Dur (第 2 主題)の二部形式にした。調性を変えた理由は、リコーダーにとっての演奏のしやすさを重視したからである。教育芸術社で扱っている「威風堂々第一番」の調性も C Dur (第 2 主題)であることに加え、第 1 主題の G Dur で扱う特別な音(C Dur のスケールで扱わない音)が As、Fis、Cis、B であり、リコーダーで演奏することが容易である。二部形式にした理由は、時間的な制限(文化祭や親善音楽会で、合唱合奏含め 8 分)であることと、小学校高学年での長時間の演奏は難しいという判断である。

調性をリコーダーに合わせたことで、吹奏楽楽器での困難さ(吹奏楽の初歩的な楽曲は B Dur であることが多い。C Dur の演奏は、ある程度の慣れが必要)も生じることが考えられたが、当校音楽部の部員は C Dur の楽曲の経験もあるため、乗り越えられると判断した。

さらに、リコーダーは楽曲全体を通して演奏をするようにした。それに対して吹奏楽楽器は、リコーダーが示した動機や旋律を反復して演奏するような役割にした。

これらのことから、本楽曲の編曲はリコーダーの演奏のし易さを一番に優先したものとなった。

② パート編成

基本的に自分が希望したパートになれるように配慮した。希望は、第三希望までとった。音楽部の部員は自分の担当の楽器を希望し、担当をした。例年、希望の楽器が重なった時

は、6年生が優先になっていたこともあり、5年生の中には第一希望ではないリコーダーを担当した子供も少なからずいた。しかしそうすることで、リコーダーと吹奏楽楽器の音量の差異がある程度解消され、対等な関係のパートとなると考えた。なお、音楽部の子供は、教科としての音楽学習に加え、部活動で更に音楽に関わる時間があり、意欲関心も高い。それに対して、リコーダーを担当した子供は、教科としての音楽学習のみでの音楽への関わりであり、意欲関心も、それ程高いというわけではない。

4 実際

ここでは、「子供の振り返り」と「職員の評価」「外部からの評価」を示し、それぞれに考察を加える。なお、「子供の振り返り」は吉村が担任する5年生(男子24人、女子14人、計38人)から抽出したもので、「職員の評価」は音楽会に向けた練習に関わっていた6年担任(30代男性、本実践では吹奏楽楽器のパートを担当、普段音楽の授業は担当していない)からの聞き取りである。

(1) 子供の振り返り

① リコーダーを担当した子供の振り返り (()の説明や中略、及び下線は吉村による)

- ・ぼくは、リコーダーが苦手な練習の時は間違っただけでしたが、本番ではミスなくうまく演奏できました。うれしかったです。
- ・最初は「できるかな」と思っていました。けれど練習していくうちに「できるかも」と思いました。本番は少し緊張していました。手汗でリコーダーが落ちそうになりました。けれど、演奏していくうちになんだか楽しくなってきました。これも練習の成果だと思いました。
- ・ぼくは威風堂々がむずかしくてぜんぜんうまくできませんでした。よくサビの前のところ(16分音符の半音階進行の場面)が速くて間違っただけでした。でも、今日(親善音楽会)は、そんなに間違えないで吹けました。(中略)帰る時に、他の学校の先生に「威風堂々よかったよ」と言われました。とても嬉しかったです。
- ・ぼくは威風堂々を演奏して、マルカートとレガートの差を出そうと頑張りました。(中略)表町小学校みたいに、たくさんの楽器を使って演奏している学校はなかったのだから、表町小学校は豪華だなと思ひ、嬉しかったです。

② 吹奏楽楽器を担当した子供の振り返り

- ・初めはスタンドシンバルとバスドラムのタイミングが違うので、難しかったです。パーカッションのチームのリズムもずれていました。でも、当日は、パーカッションチームはもちろん、他のパートも指揮と合っていて、よかったです。今日は、一人一人が力を合わせていい発表ができたと思います。
- ・この親善音楽会では、周りの音をよく聞いて演奏することを大切にしました。フルートの友達と目を合わせてタイミングをそろえようと思いました。その時、リコーダーがサビを吹いていたので、「最後の何小節かを、精一杯吹かせてもらおう」と心に決めて演奏しました。目を閉じて聞いてくれる、他の学校の先生もいて、嬉しい気持ちになりました。
- ・「威風堂々」を演奏した時、「最後を締めくくるぞ」と思って演奏しました。いろいろな楽器で、音をそろえて締めくくることができ、嬉しかったです。今日は大成功でした。

紙面の都合上、7名の振り返りのみの扱いとなってしまったが、どの子供も合奏への満足感を感じていることが分かる。もちろん音楽会というステージを終えた後なので、特殊な高揚感がある状態での振り返りであることも鑑みなければならない。しかし、下線部から分かるように、他のパートとの関係を認識している点、つまり演奏中に吹奏楽楽器の子

供がリコーダーの演奏を聴いているという点に注目したい。この姿から、音量の差を解消することができているかつ、アンサンブルを作ることの喜びを得ていると考えられる。この記述から、リコーダーと吹奏楽楽器が対等な関係でアンサンブルをつくることができることが分かる。

(2) 職員の評価

最初、聞いたことのない組み合わせだったので正直できるか心配でした。パート練習をしている時に、空白の時間(休符)が多くて、どんな感じになるのか分かりませんでした。リコーダーや鍵盤ハーモニカの楽器と一緒にになると、「ああなるほど。」という感じがして、少し感動しました。合奏の練習になってから、それぞれのパートの役割があって、互いに繋がったり、助け合ったりしながら楽曲を作っていくことが分かって、勉強になりました。ホールでも、リコーダーと金管楽器や木管楽器がバランスよく音が鳴っていて、聴きごたえがありました。子供たちの姿にとっても感激しました。

当校職員からの評価からも、リコーダーと吹奏楽楽器とのアンサンブルが対等であり、それなりの聴きごたえを保証できることが分かる。

5 おわりに

実際の「子供の振り返り」と「職員の評価」から、本実践ではリコーダーと吹奏楽楽器の差異を解消し、奏者の満足感と聴き手の満足感を、ある程度確保することができたことが分かる。やはり、この結果の影には、楽曲のもつ魅力は当然なのではあるが、同時に、それぞれの楽器のもつ特性や差異を解消するための工夫があることを強く感じる。特に、リコーダーを担当している子供の満足感は、リコーダーの演奏のし易さを重視して編曲した結果である。

今回は、リコーダーを中心にした編曲の重要性を述べた。こうした実践は、場面や状況に左右される所が大きい。しかし、本稿はリコーダーと吹奏楽楽器が、対等にアンサンブルをつくることを体現した大切な一例であると考えている。親善音楽会を終えた後、新たに音楽部に入部した子供もいる。音楽への興味関心が高まったことをとても嬉しく感じている。部活動でもリコーダーを積極的に取り入れ、二つの器楽の新たな取組を目指したい。



会員・読者の皆様へ 投稿のお願い

昨年度末、3号にてお知らせしましたように、執筆いただいています太田光子先生の原稿テーマについて皆様にお願ひがあります。先生と相談しました結果、皆様の悩みや声を生かした内容にしたいと考えています。

つきましては、リコーダー吹奏・アンサンブル・指導等に関して、日頃から皆様が悩まれていることについて、質問や疑問を寄せていただければと思います。

経験豊富な方も、初心者の方も、大歓迎いたします。「こんな些細なことでもいいのかしら」、と思われることでもお待ちしております。

<例えば>

- ・ 合奏・重奏の時に、うまくいかないこと
- ・ ユニゾンがなかなか合わない。どうしたらうまく合わせることができるのか
- ・ 和音を綺麗にハモらせるには
- ・ 日頃の練習での自分がなかなか解決できないこと
- ・ ○○曲(具体的な曲名)で「ここ」のところを上手く演奏できるようにするためのポイントは等

◆ 右のアドレスまでお寄せください。 ⇒ mitu3tu@gmail.com 樋熊



<<編集後記>>

第1回例会の折に発行する予定でしたが、8月の夏季研修時になりました。

「さえずり」に関して、投稿原稿・問い合わせ・要望等ありましたら、是非、下記までお寄せください。(＊。＊)

これまでにないほどの猛暑です。熱中症等で体調を崩されませんよう、どうかご自愛ください。

(吉村)

※ tomophil0827@yahoo.co.jp (吉村 智宏：長岡市立表町小学校勤務)

広報主任・副理事長 : 吉村智宏 / 樋熊 三津男 / ホームページ : 児玉禎明

